

農林水産省 東北農政局 秋田県拠点

# 秋田ニュース

Stationed at Akita Prefecture Area,  
Tohoku Regional Agricultural Administration Office



## 二酸化炭素ゼロエミッション農業を目指して

「みどりの食料システム戦略」では、温室効果ガス削減を目指し、園芸施設について2050年までに化石燃料を使用しない施設への完全移行を目標とした技術開発が進められています。今回、大仙市南外で早くから化石燃料を使わずにトマトの周年栽培に取り組んでいる事例を紹介します。



高橋浩行代表取締役

株式会社秋田農販では、2015年からもみ殻ボイラーを導入し、冬期間の暖房費を抑える周年栽培の施設園芸に取り組んでいます。

### 地域資源エネルギーの活用

高橋代表取締役によると、「もみ殻ボイラーの熱源は40℃程度だが、冬場の灯油代を半減させることができる」、「もみ殻は近隣の農家やJAのコントリーエレベーターから調達し、地域の資源を有効に活用できる」、「灰として排出される副産物のもみ殻くん炭（バイオ炭）は、土壌改良剤や融雪剤として農地に撒くことで分解されにくい炭素を長期に亘り土の中に貯めることができる」とのことです。



もみ殻ボイラー施設

ハウス内ではトマトとイチゴが栽培され、トマトについては周年栽培を行い、「恋ベリー」の名前で商標登録し、1年を通して県内外に販売しています。また、秋田県内の食品事業者へ加工製造を委託しトマトピューレやパスタソースなどを商品化しており、6次産業化も考えています。

イチゴは収穫期間が限られているため、今後、収穫期間が長い「四季なり」イチゴを導入し、トマトと同様に周年栽培を検討しているところだ。



トマトピューレ



種苗交換会での  
従業員の方々



恋ベリー

### IoT技術を導入した取組

農業の先進的な取組に積極的にチャレンジする高橋代表は、県外大手企業や秋田県立大学と共同で、ハウス内の温湿度、日照時間など栽培環境を自動制御するIoT技術を導入した「最適栽培環境（レシピ）システム」の開発研究に携わってきました。このシステムの特徴は、年間を通して、化石燃料を使わないことです。ハウスの地中に埋めたパイプへ、夏は雪解け水等を、冬はもみ殻ボイラーで加熱した温水を循環させ、温度管理等の栽培環境を最適にすることができるシステムで、ハウス内のセンサーのデータをスマートフォンでリアルタイムで確認することができるため、「当社のトマトとイチゴの栽培は、レシピの確立により、安定した収量が望める。」との話がありました。



MGTの施設

最近では、熱、電気を生み出し二酸化炭素を発生させないアンモニアを燃料とする「マイクロガスタービン（MGT）等」を活用した「地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業」（環境省）

の取組を行っており、成果が期待されるそうです。

将来展望について、「これまでの実証研究等の経験を踏まえて、農業の脱炭素化の取組を進め、地域農業の活性化に貢献していきたい。」と話していました。

※ ●：秋田農販提供写真

# リンゴの輸出を通して海外へ大館市をアピール

## 陽気な母さんの店(株) (大館市)

### 販売先の一つとして

大館市で農産物直売所や農業体験等、様々な分野で地域に根ざした活動している「陽気な母さんの店(株)」では、農産物の地元販売を行ってききましたが、3年前からメンバーが生産するリンゴの輸出を始めました。秋田県が行っている沖縄を起点としたアジア圏への輸出ルートの構築を図る事業がきっかけとなって、タイ向け輸出に取り組むことになり、輸出の実務は青果物仲卸にお願いしています。

日本国内の人口が減少する中で、産直と言えども地元販売だけでは今後の事業が先細りになるのが見えているので、関東方面等の大消費圏へも販路を広げていますが、海外輸出も販売先の一つとして開拓することが必要と同社では考えています。輸出業者へは、国内販売と同じような価格で出荷していますが、高価格帯の品種を輸出用とすることにより生産者の増益に繋がっています。



陽気な母さんの店直売所

### 地元を海外へPRできる

加えて、輸出のメリットは農産物を通して海外の人に日本を知ってもらい、秋田県大館市をさらに知ってもらって「日本に行ってみよう。大館市に行ってみよう。」と思ってもらえることにあり、同社の代表は話します。秋田県のオリジナル品種である「秋田紅あかり」を輸出用を選んでいるのはそのためでもあります。



新作のタイ向けパッケージ



代表取締役 石垣一子さん(左)と輸出を担当する高橋さん

### 動画で産地紹介

今年は、タイ向けのパッケージを新たにデザインしました。また、地元のDMO(※)秋田犬ツーリズムの協力をいただいて輸出先向けの動画を制作しました。商品に添えたチラシのマトリックス型二次元コードを読み込めば生産地(大館市)や園地の紹介、生産者の顔が視聴できるようになっています。映像にすることによって輸出国の消費者に大館市の魅力が強力に伝わるものになります。



輸出国向けの動画



輸出国向けチラシの一部

商談会で繋がりのできた業者から、梨のシンガポール向け輸出に取り組みたいとの話があったので、市内の梨の生産者を紹介し、前向きに進んでいるとのこと。今後はシンガポール向けの輸出に期待しています。(※) DMO: 観光地域づくり法人の略。

#### 【農林水産物・食品の輸出実績】

2022年10月 1, 251億円 (前年同月比+18.7%)

輸出額内訳: 農産物 843億円、林産物 54億円、水産物354億円

#### 【10月の輸出額の増加が大きい主な品目】

- 1位 ホタテ貝 (+33億円)
- 2位 真珠 (+13億円)
- 3位 牛肉 (+13億円)

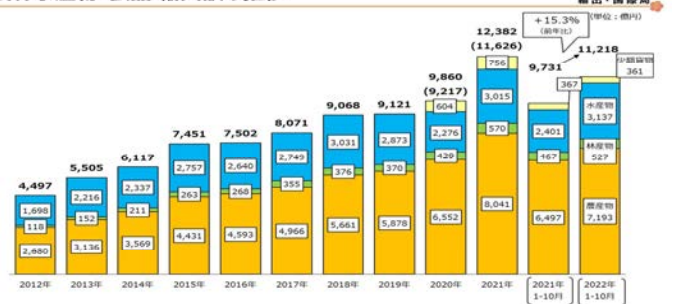


出典: 「農林水産物・食品の輸出に関する統計情報」(農林水産省)

詳しくは右記のURLからご確認ください。

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e\\_info/zisseki.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_info/zisseki.html)

#### 農林水産物・食品 輸出額の推移



東北農政局 秋田県拠点 地方参事官室

〒010-0951 秋田市山王7-1-5 TEL: 018-862-5611 FAX: 018-862-5340

URL : <https://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/akita/index.html> Eメール(総合窓口) : [sanjikan-info-ak@maff.go.jp](mailto:sanjikan-info-ak@maff.go.jp)